森の日記

2025 年 7 月 13 日～10 月 13 日

by 迷鳥キツツキ

7 月 6 日は鳥類調査、里山 P、チョウの調査が 1 日かけて行われましたが、私は自然史研究会によるアポイ岳登山があったのでそちらに参加しました。30 数年ぶりのアポイ岳を楽しむことができました。

7 月 13 日はチョウの調査が朝 8 時半から行われました。森の中ではオオウバユリが満開でした。林床にはヤブハギやハエドクソウ、キツリフネが咲いていました。ミドリシジミ類とタテハチョウ類が多種類かつ多数出現し、オオヒカゲ、コムラサキなども今季初めて出現しました。同定は経験豊富なメンバーさんたちがしてくれたのですが、種類が多すぎて時間がかかり、12 時少し過ぎてもルートの半分くらいしか進んでいませんでした。私は所用のため昼までで失礼させて頂きましたが、調査は 15 時 30 分までかかったそうです。最後まで調査をされた会員さんは大変お疲れ様でした。

左：ミドリシジミの同定、　右：オオヒカゲ。

7 月 21 日は「自然観察会」が帯広市北部の発祥の地公園で行われました。いつもの活動場所から離れて、違う場所で水辺の昆虫や魚に触れてみようというのが目的でした。１年前に札幌に引っ越して行った高校生会員さんにも久しぶりに会えて良かったです。公園ではトンボ類とイトヨ、トミヨなどの魚を観察できました。冷たい水が湧き出ている泉の場所も知ることができました。

左：旧帯広川の渡渉場所、　右：冷たい水が湧く泉。

8 月 3 日はチョウ類調査が朝 8 時半から行われました。ミドリシジミ類がほとんど出現しなかったので、分類同定に時間がかからず、調査が早く進行しました。大きくて綺麗なチョウとしては、オオウラギンスジヒョウモン、コムラサキ、カラスアゲハ、キアゲハなどを観察することができました。調査中に見た植物も晩夏の様相に変わってきました。気づいた植物としては、ツリガネニンジン、ヤブハギ、ヤブジラミの実、キツリフネ、ヒヨドリバナ、チョウセンゴミシの実、イチゲフウロ、オオハンゴンソウ、咲き終わりのクガイソウ、ノブキの花、ネジバナ、クサレダマ、エゾヤマハギ、オミナエシなどがありました。

左：調査中のメンバー、　右：オオウラギンスジヒョウモン。

8 月 17 日は昨年整備したオミナエシ植栽区の周りに侵入したオオアワダチソウを抜き取ってオミナエシが拡がっていけるようにしました。またオミナエシ植栽区内に混在する他の種類の雑草も除去しました。これらの作業を終えたのち、オミナエシ植栽区に至る園路の除草と剪定も行いました。

Ik さんと It さんが各種の樹木の切り口やそれらを挿した水にブラックライトを当てると発光する様子を見せてくださいました。 強く発光する樹木としてはアオダモがあるそうです。今日は近くにアオダモがありませんでしたが、ヤチダモやヤマグワも発光しました。菌類や昆虫、鉱物の中にも発光するものがあって

面白いそうです。

左：オミナエシ植栽地の世話、右：ブラックライトのテスト。

午後には植物調査がありました。今日はイチゲフウロ、ミツバフウロ、ゲンノショウコの３種類を確認できました。実りの秋を迎え、キンミズヒキ、ヤブハギ、ミズヒキ、ハエドクソウ、ガガイモ、ノブキなど花と実が混在する植物も多くありました。調査途中から雨が降ってきて、調査が終わる頃には本降りになりました。

左：植物調査第２班、　　右：イチゲフウロ。

8 月 24 日はチョウの調査が行われました。久しぶりの快晴でミドリシジミ類やアゲハ類をたくさん見ることができました。この数日雨が十分に降ったので、森の植物も活き活きとしていました。調査にははるばる霧多布湿原センターの新任の職員さんが参加して下さいました。未明に浜中を出発してこられたそうです。若い方のエネルギーに感心しました。

左：植物調査中のメンバー、　　右：ナミアゲハ。

9 月 7 日は午前中雨だったため、チョウの調査は午後から行われました。午前中ならもっとたくさんのメンバーが来られる予定だったとのことですが、私も含めて４名でのスタートになりました。草木の葉が濡れていたため、前半は主にクロヒカゲやスジグロシロチョウ、オオヒカゲが出てきただけでした。森を抜けて日差しが強くなるに伴い、ミドリヒョウモンをはじめとするヒョウモンチョウ類、モンシロチョウ、モンキチョウなどがたくさん飛び始めました。中間部のあずまや付近で新たに２人のメンバーが加わり、６名で調査を行いました。夏のなごりや秋の花々と木の実を楽しむことができました。

左右ともに、もりの山の麓の草原部で調査をするメンバー

9 月 15 日は午前中にチョウの調査、午後に植物の調査が行われました。チョウの調査は快晴だったので、小学生も含め多くの会員が集まりました。チョウは一昨日の雨と昨日の強風の影響で、あまり多く出現しませんでした。私は捕虫網も持たずに草花などを眺めながら調査を楽しみました。午後の植物調査は、指標種調査とモニタリング 1000 調査という２つの課題が重なり大変でした。

左：調整池の南で調査、　　右：チョウを追う会員さん。

左：エゾトリカブト、　　右：ホウチャクソウ。

9 月 28 日は森林植生回復試験区の調査を行いました。植物を移植してから６年くらいになりますが、その試験区にどのような植物が定着しているか、エゾノウワミズザクラとホザキシモツケがどの程度生育したか、試験区のなかに残存するオオアワダチソウの本数

とその高さなどを調べました。エゾノウワミズザクラとホザキシモツケは順調に大きく生育しており、オオアワダチソウは非常に少なくなったので好ましい傾向であると思いました。いつもより少なめの人数で行ったので時間がかかりました。

左：試験区の植生調査、　　右：ユキザサの実。

10月5日は朝６時30分からエゾリスセンサスが、10時30分から今年最後のチョウの調査が行われました。エゾリスセンサスでは、決められたルート歩いて出現するエゾリスの数とそれぞれの行動様式を調べ、同時に途中に生えているチョウセンゴヨウの樹上に生っている毬果の数と地上に落ちている数を数えるという仕事です。私は主に地上に落ちているチョウセンゴヨウの毬果の数をひたすら数えました。コースは５つあって会員がグループに分かれてそれぞれのコースを調査するのですが、今日はいつもあるコースのリーダーをしている会員さんが都合で来られなかったので、１つのグループは２つのコースを連続して調査することになりました。私は会長さんともう一人の女性と３人で一緒に２つのコースを調査しました。なかなか大変な仕事でしたが、多数頭のエゾリスを見ることができ、またこれで５つのコースの全てを体験することができました。

10時半からのチョウの調査はチョウの調査から参加する人と小学生君１人を加えて、いつものコースを歩きました。気温が低くなってきたので、チョウの出現数は非常に少なく、モンキチョウ、モンシロチョウ、ベニシジミなどを数頭確認しただけでした。コース上ではベニテングタケやイグチ類を始め多種類のキノコを見ることができ、黄色や赤色になっていく秋の景色を楽しむことができました。

左：エゾリスセンサス打ち合わせ、　　右：エゾリス。

左：もりの山付近、　　右：トンボを捕まえました。

10 月 13 日の午前中は里山作り活動として林内のチョウセンゴヨウの実生とオオアワダチソウの抜き取りを行いました。JICA の森林コースの研修員さんたち 14 名も参加してくれました。会員のＩ さんが活動の目的などを説明しました。JICA 研修員の皆さんも楽しんでもらえたようです。終わりに活動の感想を自発的に発言して頂き、また感謝を表す即興のパフォーマンスを研修員の一人が考案し、皆で踊りました。

左：JICA 研修員さんたち、　　右：感謝のパフォーマンス。

午後は今年最後の植物調査を行いました。晩秋になり実を結んでいるものが多かったです。花のほとんどは草刈り後に再生して咲いたものでした。

左：クサフジの実、　　右：植物調査班。